【3】 63年度の取り組みの概要

(1) 全体構想の中で

初年度は小学部の研究テーマを「からだを動かすことを楽しむ子」と設定し、まず各種の実態調査や日常の生活の様子等から、小学部の個々の児童の発達段階や課題などを的確に把握することに努めた。そして、リズム・サーキット、合同体育、合同音楽、遊びを主な実践の場として、各々の児童のからだ像、目標とする児童像に向かって実践してきた。（研究紀要10集参照）

(2) 共同研究の概要

小学部では児童のからだに関わる実態調査として、遠城寺式乳幼児発達検査・からだの輪郭表・ムーブメント教育プログラムアセスメント（以下ＭＥＰＡとする）・遊びの実態・家庭生活の調査・ボディチェックの６つの調査を実施した。その結果、４つの指導形態の中で実践していった概要は以下に示す通りである。

○リズム・サーキット

運動経験を増やし楽しんで動く中で、児童の動く力を育てること、動きを通して認知力や情緒の発達を促すことをねらいとして、毎朝30分間個別学習の子ども以外を対象に実施してきた。数種類の運動を組み合わせ、特に基本の運動ではみたて・つもり活動を取り入れた。

○合　同　体　育

合同体育では、身体的発達、精神的発達、社会性の発達を図ることを主にねらいとし、調整力を必要とする運動や、身体像・身体図式を育てる運動を取り入れて指導した。

○合　同　音　楽

合同音楽では、模倣能力をつける、リズミカルな動きを身につける、手指機能の発達を図る等をねらいとし、学習の流れをパターン化することで見通しを持って取り組ませると同時に、評価表へ記入し次の指導への足がかりとした。

○　遊　　び

小学部児童の発達段階の上で遊びは重要な役割を果している。この遊びを意図的に組み立てることで遊びの経験を増やし、遊びを発展させ子どものからだの素地を養うことをねらった。具体的には、週２回25分間を遊具遊びの時間とし、その他は学級で自由遊びと設定遊びを設けて指導した。

(3) 63年度の取り組みと今後の課題

63年度は研究の初年度ということで、児童の実態調査や、指導法の組み立て等を中心に研究を進めてきた。共通理解が深まったことは良かったが、実態調査の方法や分析等まだ不十分なものも残された。今後は、この不十分なものをより確かなものにしていきながら、実践を深めていくこと、更に各指導形態のになう役割とそれらの関わり方をより明確にしていくことが課題である。